



女官志

職官	部類
/	冊
之	由
/	如

73
6252





73  
6252

御山  
御房

の官志あのみま

林重良

肉付のらん

執柄乃御始ひまり

肉侍のまけ

大中納言の娘いの御執修毒のむらり

乃娘あゝ

肉付のせう

平家たい菅家くさのあ月つきれの娘むすめあら今いまあら

五味均平蔵

去  
五味均平蔵

五味均平蔵



内侍のついで

けり

と徳のついで一徳二徳はけり

とけりおは大臣大中納言の娘下地人

とけり娘のついでおは女官の御前おは又三

位官おは女官のついでおは内侍のついでおは成あり

と徳先

女官

徳のついでおは女官の御前おは又三

と

と

のついでおは女官の御前おは又三

徳のついでおは女官の御前おは又三

と

女官

のついでおは女官の御前おは又三

徳のついでおは女官の御前おは又三

とけりおは女官

とけり内侍のついでおは女官の御前おは又三

徳



大ららふ

親王様殿大はちの御娘まつ式ありと  
らわらふ大申御言のあはれとて大はち  
あはれ殿の人おめあはれらふらふらふら  
めららふ

大申御言人へのあはれとて大はち  
あはれとてあはれとてあはれとて

申らふ

あはれとてあはれとてあはれとてあはれとて  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとて

の人又若き人へあはれとてあはれとて  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとて  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとて  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとて  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとて  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとて  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとて  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとて

大ららふ

かきんの親王大はちの御娘まつ式ありと  
あはれとてあはれとてあはれとてあはれとて

申らふ







はまのり

あつめいり

このかゝる執福家もしくも肉重家からいへ  
このせん一あ

御いり

大いりのまいりおれおれ一  
あつめいり

御いりおれおれ

北東御いりから南西と柳<sup>しゅう</sup>方<sup>ほう</sup>角

④

あつめいりおれおれ  
あつめいり

御いり

あつめいりおれおれ

あつめいり

あつめいり

あつめいりおれおれ

あつめいり

あつめいり



一系二系三系近衛春日らぬはと  
の者也大名東抱らぬは中なる  
倉田宗利とて治めしるも  
る中らふの威ありしも  
付也

大納言房

中納言局

と兼侍

師

按察使

と兼侍

らぬはらふの付者也  
らぬは師らぬは

(五)



一任局 二任局 三任局

らぬはまづぐの

めりきやめりき

らぬはまづぐの中らふ

名

中納言 少納言

と兼侍

きん

らぬは中らふの中らふ

とてめりきも



ひんこ

きんごう 少納言 小弁 女中の名

きんごうはちのちのちきんごう少納言の中  
らうけいさうきんごうはしんごう

きんごうきんごう

伊豆 ちんごう ちんごう 周防

越前 せいせ

きんごうはちのちのちきんごうはしんごう  
きんごうはしんごう

ひんこ

母及 おんこ 越前

ひんこ ちんごう 加賀

らうけいさうきんごうはしんごう  
きんごうはしんごう

きんごうはしんごうはしんごうはしんごう  
きんごうはしんごう

きんごうはしんごうはしんごうはしんごう  
きんごうはしんごう

唯之終らるは御 若らる也又中ら得小弁



おぼなまのこゝろあるはちかしくいふに  
いほくのほかにさうもたれはなほいふに  
さうもたれはなほいふにさうもたれは  
くのこゝろあるはちかしくいふに  
のほかにさうもたれはなほいふに  
らうもたれはなほいふにさうもたれは  
とほかにさうもたれはなほいふに  
をさうもたれはなほいふにさうもたれは  
もさうもたれはなほいふにさうもたれは

④

おぼなまのこゝろあるはちかしくいふに  
いほくのほかにさうもたれはなほいふに  
さうもたれはなほいふにさうもたれは  
くのこゝろあるはちかしくいふに  
のほかにさうもたれはなほいふに  
らうもたれはなほいふにさうもたれは  
とほかにさうもたれはなほいふに  
をさうもたれはなほいふにさうもたれは  
もさうもたれはなほいふにさうもたれは

永徳二年二月十日



右之冊を改訂しし事御也 他似なき  
ふらぬの心算ありし事書かすこと  
此の中よりしるす事あり

万治二年三月日権少印記中原家

二条通大回寺所

田村五郎宗為 撰  
後 撰





